

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

<b>事業名</b>	我が国におけるアート・エコシステムの形成			<b>担当部局庁</b>	文化庁	<b>作成責任者</b>						
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	文化経済・国際課	課長 寺本 恒昌						
<b>会計区分</b>	一般会計											
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	文化芸術基本法 第15条			<b>関係する計画、通知等</b>	成長戦略フォローアップ(令和3年6月18日閣議決定)文化芸術推進基本計画—文化芸術の「多様な価値」を活かして、未来をつくる—(第1期)(平成30年3月6日閣議決定)文化経済戦略(平成29年12月27日内閣官房・文化庁)							
<b>主要政策・施策</b>	クールジャパン、知的財産			<b>主要経費</b>	その他の事項経費							
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	我が国現代アートの国際的な評価を高める活動と国内アート市場の活性化に向けた環境整備に取り組み、我が国におけるアートの持続的発展を支えるアート・エコシステムの形成を図る。											
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	①アートプラットフォームの形成(委託) 日本における現代アートの持続的発展を目指し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進する事業。 ②優れた現代美術の国際発信促進事業〔補助率 対象経費の1/2〕 海外の著名なアートフェスティバル等への我が国の現代美術作家・作品の展覧や国内の国際発信力のある現代美術の展覧会等に対して支援。											
<b>実施方法</b>	委託・請負、補助											
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	令和元年度	192	令和2年度	192	令和3年度	192	令和4年度	286	令和5年度要求	-
		補正予算		-		-		-		-		
		前年度から繰越し		-		-		-		14		
		翌年度へ繰越し		-		-		14		-		
		予備費等		-		-		-		-		
		計		192		192		206		300		0
	執行額		123		145		160					
	執行率(%)		64%		76%		78%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		64%		76%		83%						
<b>令和4・5年度予算内訳(単位:百万円)</b>	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由								
	文化芸術振興費補助金	180	-	令和5年度は一部事業を独立行政法人国立美術館に移管すると同時に、他の事業を再編して新規事業として要求する予定である。								
	文化芸術振興委託費	103	-									
	庁費	1	-									
	委員等旅費	1	-									
	その他	1	-									
	計	286	-									
<b>活動内容(アクティビティ)</b>	①アートプラットフォームの形成											
<b>活動目標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込			
	アート市場の基盤となるプラットフォームを形成する	翻訳公開した論文の件数	活動実績	件			13		-			
			当初見込み	件			10	40	-			
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込				
	①アートプラットフォームの形成(委託)委託総額(百万円)÷委託事業件数			単位当たりコスト	百万円	74	99	98	103			
				計算式	百万円/件	74/1	99/1	98/1	103/1			

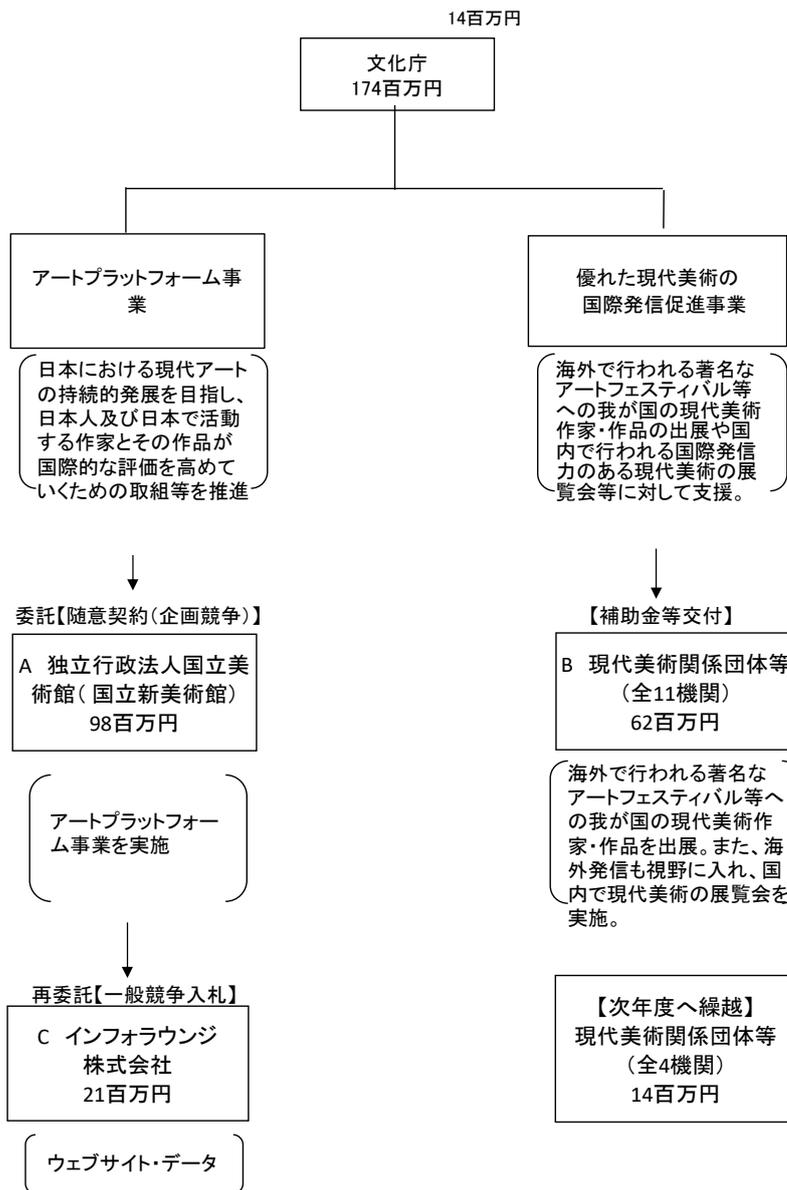
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	世界中の展覧会、オークションデータ等により、約10万人のランキングを作成しているARTFACTS.NETの100位までに入る日本人アーティストが3人になることを目指す。	ARTFACTS.NETの100位までに掲載されている日本人アーティストの数。		成果実績	人	3	3	4	-
		目標値	人	3	3	3	-	-	
		達成度	%	100	100	133	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	ARTFACTS.NET								
活動内容 (アクティビティ)	②優れた現代美術の国際発信促進								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	我が国の優れた現代美術をより多く国際的に発信する	「優れた現代美術の国際発信促進事業」支援事業数		活動実績	件	31	10	11	-
		当初見込み	件	30	30	30	30	29	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	②優れた現代美術の国際発信促進事業(補助金)支援総額(百万円)÷支援事業数			単位当たりコスト	百万円	2	5	6	10
		計算式	百万円/件	48/31	45/10	62/11	290/29		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 4 年度	
	日本国内のアート市場規模	日本国内のアート市場の取引高を世界第4位のフランス(2019年約4,200億円)に次ぐ規模に引き上げる		成果実績	億円	2,580	2,363	2,186	-
		目標値	億円	-	-	-	-	3,000	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	エーアート・芸術と創造「日本のアート産業に関する市場調査」								
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	12 文化芸術の振興							
	施策	12-1 文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実	政策評価書						URL
			該当箇所						
	取組事項	分野:	文教・科学技術	17 民間資金を活用した文化施設の推進					
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021)		URL:							
	該当箇所								

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	内閣府「社会意識に関する世論調査(平成30年度)」では、日本の誇りとして、「すぐれた文化や芸術」(49.6%)を多くの人が挙げており、我が国の優れた文化芸術の海外発信の推進は国民のニーズに合致したものとと言える。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	我が国の現代美術を海外の著名なフェスティバル等で紹介していくためには、渡航費、文芸費、舞台費、会場費、運搬費等の多額の費用を要することから国費による支援が必要である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、現代アート等の我が国の優れた芸術文化を世界に発信することを目的として、その基盤整備及び海外展等への出展を支援するものであり、政策目的の日本文化の発信に資するものである。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	委託先の選定は、競争性を確保するため、公募を実施し、外部有識者等で構成する選定委員により決定しており、妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	なお、一者応札・応募となったものについても、十分な公告期間を設け妥当性や競争性を確保しており、問題はないものと考えられるが、今後一者応札・応募の状況が改善されるよう、更なる公告期間の確保等を検討していく。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	アートプラットフォーム事業では、プラットフォーム構築に資する事業のみに支出しており、海外のアートフェア・フェスティバルへの補助であれば、会場費、会場設営費、運搬費、旅費と補助対象経費を限定した上で補助対象経費総額の1/2の補助としており、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	委託事業は事業全体を一者への委託としており、補助事業は、実施団体の提出する予算書について、有識者等で構成する委員会等の議論を経て補助額を決めており、コストの水準は妥当である。なお、アートプラットフォーム事業では、令和元年度はコロナの影響により直前にシンポジウムが実施できなくなったために不用額がでたが、令和2年度はコロナの影響を踏まえて事業計画の変更をしながら事業を進めており、当初予算通りの執行を予定している。そのため、見た目の単位当たりコストは上昇しているが、実際は、令和2年度も令和元年度とほぼ同等の水準であり、妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	アートバーゼル香港の延期により補助金も繰り越したため。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	アートプラットフォーム事業では、プラットフォーム構築に資する事業への支出に限定しており、海外のアートフェア・フェスティバルへの補助であれば、会場費、会場設営費、運搬費、旅費と補助対象経費を限定した上で補助対象経費総額の1/2の補助とするなど、費目・使途は限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	優れた現代アートの国際発信事業において、補助対象となっていたアートフェアが中止や延期となったため、補助できなかったことにより、結果として大きな不用額が発生した。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	公募要領のペーパーレス化を実施するなど、経費の削減に努めている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は、概ね目標と同等の水準に達している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	事業は公募を行った上で、有識者による会議において、事業目的達成に効果的であると判断されるものを選定し、経費を査定した上で実施しており、効果的かつコストを抑えた事業が実施できている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は、おおむね見込みどりのものとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	令和2年度に構築されたウェブサイトは新たなコンテンツを充実されるなど、日本の現代アートの発信拠点として活用されている。

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					○	公募型アーティストの国際発信支援事業をアートプラットフォーム事業と合わせて実施。
	事業番号			事業名			
	2022	文科				芸術家・文化人等による日本文化発信・相互交流事業	
点検・改善結果	点検結果	順調に推移している。					
	改善の方向性	アートプラットフォーム事業は令和4年度をもって終了し、令和5年度からは国立美術館に移管する方向性で検討中。					
<b>外部有識者の所見</b>							
外部有識者による点検対象外							
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>							
の事業部内改善	この事業は事業目的は明確であるが、予算執行に当たって、一者応札になる等の競争性が十分に働いていない状況も見受けられるため、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>							
執行等改善	仕様内容の見直し及び入札説明会参加者への聴取等を通じ契約の競争性・公平性・透明性の確保に努める。						
<b>備考</b>							
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>							
平成23年度	-						
平成24年度	-						
平成25年度	399						
平成26年度	399						
平成27年度	397						
平成28年度	380						
平成29年度	388						
平成30年度	392						
令和元年度	文部科学省 -	0376					
令和2年度	文部科学省	0353					
令和3年度							

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・用途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A. 国立新美術館			B.一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
事業費	アートプラットフォームの形成	64	会場設営費	バスチャーター費等	21
再委託費	ウェブサイト構築	21	作品制作費	アートモバイル製作費等	8
一般管理費	上記にかかる一般管理費	7	雑役務費	チケットインシステム等	1
人件費	上記にかかる人件費	6			
計		98	計		30
C.インフォラウンジ株式会社					
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
人件費	ウェブ構築にかかる人件費	12			
事業費	サーバ管理費等	7			
一般管理費	上記にかかる一般管理費	2			
計		21	計		0

